



2025年1月9日付(共同通信社配信)

ドクターイエロー引退へ

東海道・山陽新幹線の点検車両で「ドクターイエロー」として親しまれた新幹線電気軌道総合試験車が、老朽化により引退することになった。JR東海の「T4」は1月中旬に運行を終え、JR西日本の「T5」も2027年以降に姿を消す。タイヤは非公開で、目撃機会の少なさから「見ると幸せになる」との都市伝説が生まれるほど愛された。初代試験車から稼働期間は約60年。JRの担当者は別れを惜しみつつ長年の労をねぎらう。

JR東海は今月

昨年10月、JR東海の浜松工場で開催された見学イベント。T4、T5の2編成が同時に展示され、子どもたちが「わー！」と歓声を上げた。数多い車種の中でもドクターイエローの人気は群を抜く。おもちゃや関連グッズの売り上げは、引退発表後の約1週間で9倍以上に増加した。

JR東海によると、初代のT1は東海道新幹線が開業した1964年に誕生。当時の世界最速だった時速210キロの走行が設備に及ぼす負荷を考慮し、故障や劣化を予防する「健康診断」のため導入された。営業列車「0系」の試験車を改造し、車体は黄色に塗装。



走行するドクターイエロー（JR東海提供）

夜間作業で目立つ色にしたとの説が有力だ。

T1は電気設備の点検のみだったが、74年にレールも検査できるT2が登場した。日中も運行するようになつて人目に触れる機会が増え、いつしか「ドクターイエロー」「電車のお医者さん」の愛称が定着した。「目撃者が幸せになると誰が言い始めたのかは謎」とJR東海の担当者は不思議がるが、ファンの愛情をつかかわせる逸話だ。

現行のT4とT5は最高時速270キロで走りながら、レールのゆがみをミリ単位で測定できるほどに進化した。だが技術が進み、最新の営業列車「N700S」にも同様の検査機器が搭載できるようになったことなどから、昨年6月に引退が発表された。

「長らくお疲れさま、感謝の言葉しかない」とJR東海の電力課担当課長、持塚宏也さん(52)。ドクターイエローの車両が見られなくなつても「お医者さんの姿になつて新幹線のどこかに乗せられ、診察を続けているように感じてもらえたら」とほほ笑んだ。

JR東海の浜松工場で、2編成同時展示されたドクターイエロー＝2024年10月、浜松市



【問5】 ドクターイエローが「見ると幸せになる」と言われるようになったのは？

【問2】 ドクターイエローの役割は？

【問3】 ドクターイエローが引退となる理由は？



よ
読めない文字は、かぞくや、ともだちにきいてみてね